

# 子どもが大好きな野菜」モットーに



作業中の井藤さん夫妻

## 「子どもが大好きな野菜」モットーに

### 兵庫・姫路市 井藤真輔さん

【兵庫】姫路市で夫婦とスタッフ8人で「チームしんすけ農場」を営む井藤真輔さんは「子どもが大好きなおいしい野菜」を作ることとを目的に、趣旨に賛同してくれた仲間とトマト、イチゴのほか、姫路の伝統野菜「姫路若菜」や「網干メロン」などを育てている。子どものころから農業や食に興味があり県立農業大に進学し、地元兵庫の農業団体での勤務などを経て2013年に専業農家へ転身。太陽熱を利用した土壌消毒など「できるだけ農

## 地産地消で飲食店×農家マッチング

### 愛知・豊橋市 コラボメニュー開発へ

【愛知】豊橋市は5月27日、地元の飲食店や菓子店と生産者のマッチング会を豊橋市の「e m C A M P U S (エムキャンパス)」で開いた。同市農産物の地産地消を進めるため、2022年度から行われており、3回目となる今年は規模を拡大。畜産物や加工品も対象に加え、夏と秋・冬2回開催する。当日は、中華料理やパ



意見交換する飲食店の店主と生産者

と大葉や柿などを栽培する11軒の生産者が参加し、地産地消を進めるメニュー開発で、どんなコラボメニューができるか意見交換した。大葉の生産者からは「大葉の料理は限られて

しみ」と話した。今後、コラボメニューの話がまとまれば、市にメニュー開発を申請し、市の支援を受けながらの

1万人の参加を目標に、これまで21回実施した。参加者は県内外から集まりリピーターも増えている。5月からは、山

## 自主参加者が草刈りや収穫

### クエスト型体験事業が盛況

【岐阜】飛騨市でミニトマトやイチゴを生産し、収穫体験型農園を経営する飛騨古川池田農園の池田俊也さん(写真)は、草刈りや収穫などの作業を希望者が自主参加して解決するクエスト達成型農業体験事業「雑草ハンター」を企画し、成果をあげている。草刈りやミニトマトなどの収穫を池田さんがク



池田俊也さん(飛騨市)は、草刈りや収穫などの作業を希望者が自主参加して解決するクエスト達成型農業体験事業「雑草ハンター」を企画し、成果をあげている。

池田さんは「飛騨市や農業に興味がある人の力を集め、みんなで楽しみながら農村を守っていきたい」と語る。

## わかやま紀州館がリニューアル

### 和歌山県 県産品の魅力発信を強化

【和歌山】県は首都圏のアンテナショップ、東京・有楽町の「わかやま紀州館」がオープンから20周年を迎えたことを契機に、県内事業者の販路開拓支援と県産品の魅力発信強化を目的として、同館の店舗を拡張、リニューアルオープンした。イトインコーナーを



リニューアルオープンを祝う式典の除幕式

新設し、県の食材を使用したジェラートや梅酒、日本酒などの商品を提供。わかやまパンダコーナーも新設して幅広い世代に親しんでもらえる空間を演出するなど、新しい取り組みを展開する。6月7日には、和歌山

# 甘い乙訓メロン販売中

## 京都・向日市 清水農園

【京都】向日市の新たな特産品「乙訓メロン」が6月から7月上旬まで予約販売され、産地直送で全国に届けられる。

向日市森本町の清水洋治さん(52)が栽培する乙訓メロンは糖度の高さが特徴。一般的なメロンは糖度が12〜15度だが、乙訓メロンは16度で断然甘い。

現在、向日市観光交流センター「まちてらすMUKO」で予約販売を受け付け中。今年で4年目を迎えるが、数量限定で予約が年々増えているため、すぐに完売する人気商品となっている。

「メロン栽培を始めてから10年間は、多くの品種を試したり、栽培時の水分調整で試行錯誤したりで苦労の連続だったが、ついに最高の乙訓メロンを安定生産できるようになったので、多くの

## 唐からし栽培で一石三鳥

### 獣害軽減・収入増加・荒廃防止めざす

#### 長野・諏訪の2市町で試験栽培



下諏訪町の圃場で禰津良輔さんの講習を受ける関係者(5月17日)、岡谷市の圃場で岡谷市農業委員・推進委員が苗を定植(5月20日)



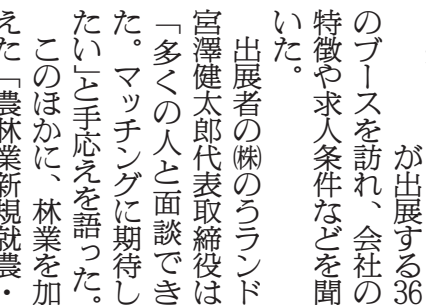
【長野】下諏訪町農業技術者連絡協議会と岡谷市農業委員会は本年度、七味唐辛子の製造販売業「八幡屋磯五郎」(長野市)と唐からしの栽培契約を交わし、試験栽培を行う。両市町では近年、シカやハクビシンの食害に悩まされてきて、唐からしは被害に遭いにくい作物で収入になり、農地の荒廃も防ぐねらいがある。栽培するのは新品種「信八」で、冷涼な同県の栽培に適し、倒伏しにくく、シカの食害にも遭いにくく、育てやすい。10月ごろの収穫と乾燥を経て来年1月から3月に納品する計画だ。同社は、県産原料を使用することで「信州の七味唐からし」としてブランド価値が高まり、参加者は鳥獣被害対策や遊休農地の活用ができる時期

## 中日本版

## 各地の話題

5月17日に下諏訪町農業技術者連絡協議会などが契約した4584株の定植が始まり、20日には岡谷市農業委員と農地利用最適化推進委員も3町の畑に用意された256株を植え、老舗の七味販売会社と農家が連携した取り組みが動き出した。

【新潟】県と新潟県農業就業マッチングフェアが6月8日、県農業大学校を会場に「農業就職マッチングフェア」を開催した。農業大学校の学生など85人が参加し、農業法人などが出展する36が出展する36



学生らに自社の説明を行う経営者

## 学生ら集め会社説明会

### 新潟県 農業就業マッチングフェア

【新潟】県と新潟県農業就業マッチングフェアが6月8日、県農業大学校を会場に「農業就職マッチングフェア」を開催した。農業大学校の学生など85人が参加し、農業法人などが出展する36が出展する36